

講習日時：令和7年8月8日(金) 9:00～17:00
講習名：知っておきたい！港湾の役割－物流、利用、環境、防災－
参加者：16人

参加者所属			
<学校種>		<担当教科等>（複数回答有）	
小学校	9	全教科、通級	2
中学校	2	社会	1
高等学校	1	理科	2
特別養護学校	4	技術	1
		体育・保健体育	2
<職名>		外国語	1
教諭	16	生活・校外活動	1
		進路指導専任	1
		特別支援学級	2

講習を選んだ理由（複数回答可）	
1受講者から勧められて	3
2会場へのアクセスが良いから	0
3講義だけでなく、見学や実習などがあるから	12
4申し込みサイトでたまたま見つけて	3
5その他	1

講義内容で評価できること（理解できたこと）

産官学が一体となってまちづくりしていること。また防災について真剣に研究されていることがよく分かった。

港や港湾と一言で表していた（教科書でも数行、数ページしかでてきていない感があり、児童への扱いに困っている）が、その中に様々な仕組みや計画があることを知り、奥が深いと感じた。

港湾に関することを防災や開発視点で学ぶことができました。（特に講義①の内容は興味深かった。）

ウォーターフロントエリアの移り変わりがよく分かった。今後の神戸の街が楽しみです。用語集があって良かったです。

神戸地区の港や河川等の歴史を知ることができた。

講話で聞いたコンテナやクレーンを実際に見に行くことができ、神戸港の物流のはたらきのことがよく分かりました。

また、防災、環境が相反することもあり、それが難しさなのだろうと感じることができた。

実験や見学があり、よく分かった。

用語に関するプリントが別で印刷されており、非常に分かりやすかった。

内容で改善すべきこと（わかりにくかったこと）

海上物流については、難しい用語も多く、難しかった。授業活用にできそうな形の具体的な紹介がほしい。

ある程度解説はあったが、やはり用語がいくつか分かりにくかった。（「上屋」など）

生態系を見学するだけでなく、スコープで掘ったりもしたかったかもしれません。

午前中の内容が全体的に難しかったです。

昼休みが45分は短かったです。周辺に食事スペースがない中で、近くの店舗で食事、帰ってくるのが難しかったです。

特になし・無回答

今後受けてみたい講習の内容（複数回答可）

1防災学習（地震）	11
2防災学習（水害・土砂）ダム・川・山・下水	8
3上水道学習 ダム・川・上下水	2
4土木遺産学習 道路・トンネル・橋	3
5資源再生学習 ゴミ処理場	3
6「持続可能な開発」教育（環境）	6
7地域の交通について 道路・港・空港・鉄道	4
8身近な公共施設についての学習 道路・橋	4

今後受けてみたい講習内容や見学したい場所が具体的にあれば教えてください。

神戸空港（3）

明石海峡大橋

関空

余部鉄橋

阪神甲子園球場

安藤忠雄設計物

神戸ポートタワー

尼ロック

神戸電鉄や加古川線はこの先生に残れるか

湊川鉄道

須磨ベルトコンベア跡

ダム

物流倉庫

津波警報のときに閉じていた防波堤

スラグはどんなふうにつくるのか。スラグにならなかった廃棄物の処分場はどんなもの（どんなところ）なのか。

田畑に水をやるための用水をひいた人たちの足跡があるが、加古川市の遺産について知りたい。

ブルーカーボンを中心にした講習

減災に興味関心があります。

「土木」についてどう思っていましたか？またこの講習を受講して変わりましたか？

我々の生活を支える重要なインフラというイメージ。多岐にわたる内容があり、子どもたちにも紹介したいと思った。

ビルのような建物を作っているとばかり思っていたが、多岐にわたるまちづくり、防災、物流のために必要なものを生み出していることを知り、すばらしいなと思った。

たくさんの分野から成っていて、幅広いことを扱うことだと知った。つくる、建設するだけでなく、考えることが多く複雑だと感じた。

作業のイメージが強かったが、そこに高度な専門知識があることが分かった。

土木は大変なものというイメージでしたが、まちづくりの大もとであることがよく分かりました。防災、物流の基礎だと思いました。

私たちの生活にはなくてはならないものだと分かりました。

マイナスイメージでしたが、まちづくりをされていることを知りプラスのイメージに変わりました。夢がある仕事ですね。

土木、防災、福祉の連携について深めたいと感じた。

言葉しか知らず、土を掘るものという印象だったが、しっかりと理解することができた。

未来をつくる仕事なんだと分かりました。

私が中学生の頃に亡くなった父が土木の仕事していました。土木の人は橋や道路を作ったりするんだと漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、

人々が生きるためにとても重要な仕事なのだと改めて感じ、父のことをとても誇らしく思いました。